



講演会に先立ちあいさつする北村会頭

平成22年から本年にかけての「企業家精神再発見事業」の内容を、簡単にまとめてみました。

「企業家精神再発見事業」を振り返る

「倫理観」を「コンプライアンス」「社会的責任」と考えれば、現在でも栄一の思想は決して色あせてはいません。 「土魂商才」すなわち武士的な精神（倫理観）と商業的センスの両立が大切であると説きます。



渋沢栄一の思想をわかりやすく講演する井上館長

講演会 「現代に生きる先人からのメッセージ」を開催

特集3 企業家精神再発見

渋沢栄一に学ぶ リーダーシップ



渋沢栄一翁 (渋沢史料館所蔵)

平成22年の事業は、次のとおりです。 ◎9月1日～5日 パネル展示「渋沢史料館出張展示 in 宇都宮」(福田屋シヨッピングプラザ宇都宮店) ◎9月6日 講演会「ここに万古不易の起業家精神がある」(宇都宮東武ホテルグランピア) ◎9月8日 シンポジウム「関東(関八州・宇都宮)と近代日本社会のリーダーたち」(ホテルニューイタヤ) ◎9月9日 基調講演 橋川武郎氏(一橋大学大学院商学研究科教授) / パネリスト 島田昌和氏(文京学院大学大学院経営学研究科教授)、都倉武之氏(慶應義塾大学福澤研究センター専任講師)、五百旗頭薫氏(東京大学社会科学研究所准教授) / デイスカサント 仲川順子氏(奈良NPOセンター理事長) / 司会 松本和明氏(長岡大学経済経営学部准教授)

平成22年から3年間にわたって行なってきた「企業家精神再発見事業」。最終年となる今年は、(公財)渋沢栄一記念財団が運営する渋沢史料館の井上潤館長と、作家で中国思想に詳しい守屋淳氏による講演会を開催しました。



120人が熱心に耳を傾けた講演会

巨人・渋沢栄一とは

渋沢栄一は天保11(1840)年、現在の埼玉県深谷市の農家に生まれました。生家は土地の富農で、農作物を作るかたわら、藍玉の製造販売など商業的な分野も手がけていました。栄一は、少年期から青年期にかけて家業を手伝いながら、経営や経済について学んでいったと思われれます。折からの尊王攘夷思想の影響を受けた栄一は、高崎城乗取等の暴挙を計画したりしますが、やがて一橋慶喜(後の15代将軍)に仕え、頭角を現して行きます。さらに、慶応3(1867)年パリ万博幕府使節団に

も同行したことから、近代的な経済・商業センスを学んで行きました。

明治維新後は、日本を一流国とするために近代経済の確立に尽力。商工会議所の前身である「商法会議所」の設立や、日本で最初の銀行の総監役・頭取など、日本に近代経済社会を確立させるのに尽力しました。

栄一は、株式会社組織による企業の創立や育成を行いました。生涯に約500もの企業に関わったと言われています。また論語を基本とした「道徳経済合一説」を説き続け、単なる金儲けではない、倫理観を持った経営を第一としていました。さらに、社会福祉や民間外交にも大きな功績を残しました。まさしく巨人と言つてよいでしょう。

多くの人に惜しまれながら、昭和6(1931)年に91歳の生涯を閉じました。

栄一の「道徳経済合一説」

渋沢栄一が「道徳経済合一説」

井上氏は「今日、渋沢栄一が注目されるのは、彼が企業倫理の実践者であり、リーダーシップを発揮した人物であるから。倫理観の伴う富の追求や公益の重視などが、栄一の経営哲学であり、論語と算盤、道徳と経済の一致をみなければ持続的な成長はない」と話し、現在に生きる栄一の思想の重要性を話しました。

また守屋氏は「中国古典に学ぶ経営者としてのあるべき姿『孔子』の教えをどう経営に活かすか」と題した講演で「社会や組織で重要なのは『共感』や『信用』だが、論理性や合理性だけでは身につけにくい。あこがれの気持ちやしつけを通して身に付けていく徳や品性が重要になる」として、論語など中国思想を例に挙げながら、体感や協調といった東洋精神の重要性をわかりやすく話しました。

栄一の時代から1世紀近くが経過し、栄一が築き上げた「経済」は、現代の日本において中心的な役割を果たしています。けれども、栄一の持っていた企業家精神や、倫理観のある経済活動についてはどうでしょうか。社会全体も、個々の企業や企業人においても、いままさに、栄一の思想をもう一度見直さなくてはならない時代ではないでしょうか。



「中国思想は現代にも生きている」と話す守屋氏

講演会「現代に生きる先人からのメッセージ」を開催